



石神井南中学校 学校だより

令和 2年度 第 6 号
発行日 11月 2日(月)
練馬区立石神井南中学校
校長 田 邊 克 宣

伝統をつなぐ運動会

校長 田邊 克宣

第58回運動会に向けて、9月28日に全校練習を行いました。今回は新型コロナウイルスの感染予防対策として、規模や内容について大幅に変更し、入場行進から、例年とは異なった形態といたしました。そうした条件に加え、何しろ全学年が一堂に会する、今年度初めての機会です。石南中としての全体行動に不慣れな1年生はもちろん、これまでと違う動きに戸惑う生徒の様子が伝わってきた第1回目でした。

石南中生の底力が発揮されたのは、ここからです。各学年とも、回を重ねるごとに生徒たちの動きが滑らかに、かつ素早くなっていき、予行演習では、本番の成功は間違いないであろうことを確信させるまでに仕上げてきました。

スローガンの垂れ幕がきれいに作られ、それぞれの学級旗も個性豊かに完成し、準備万端、後は本番を待つばかりとなった当初予定の17日は、あいにくと雨の予報です。プログラムの表紙絵に込められた思いを汲み、運動会は絶対に実施したいと、教職員もその一心で、19日に順延したものの、当日の朝も刻々と変わる天気予報を追いながら、刻限ギリギリに開催決定した次第です。

さて、いよいよ吹奏楽部の華麗なファンファーレとともに、生徒会役員を先頭に全学年が心を一つにした行進が始まり、実行委員の高らかな開会宣言の下、運動会は幕を開けました。各競技でゴールラインを越えるまで力を抜かない選手たちに、自然と起こる応援、そして係生徒のきびきびした動きと、石南中生が一体となってこの行事を成功させようという意気込みがひしひしと伝わってきます。1年生の綱引きは、各クラスが揃って力を合わせる姿に思わず引き込まれ、2年生の棒取りは、繰り広げられる駆け引きにはらはらし、3年生の全員リレーの迫力には、さすが最高学年と舌を巻きながら見入っていました。

圧巻は、何といても3年生のソーラン節です。一昨年、初めて石南中のソーラン節を見たとき、全員が揃ってこれほど低く構えるのかと驚いたことをよく覚えています。今回は、3年生全員による発表です。予行の時を上回る揃った動きで踊り切り、最後のポーズを決めた瞬間、よく頑張ったという思いがこみ上げてきました。鳴りやまぬ拍手が、観る者を魅了したことを物語っていました。

伝統は、その精神を受け継ぐものです。たとえ形は変わっても、その心意気が受け継がれていけば、途絶えることなく脈々と続いていくものです。

石南中の伝統は、決して人任せにせず、仲間の頑張りに応え、自分自身も一生懸命に取り組むことにあります。そして今回、真剣勝負の中にも正々堂々とした気持ちのよいスポーツマンシップが随所で見られたことが、新たな発見でした。

実行委員の宣誓も、諸注意も、体操も、いずれも立派なもので、何よりみんなをまとめるためによく声を出し、本当にご苦労様でした。第58回運動会は、石南中の歴史に残る大成功を収めました。

保護者、地域の皆様には、子供たちのためにご理解とご協力をいただき、心より感謝申し上げます。

